

沿革

平成 29 年 4 月 1 日	三重県立緑ヶ丘特別支援学校、三重県立城山特別支援学校草の実分校、津市立高茶屋小学校あすなろ分校及び津市立南郊中学校あすなろ分校を統合して、三重県立かがやき特別支援学校が設置される。 旧三重県立緑ヶ丘特別支援学校が本校となる。 三重県立城山特別支援学校草の実分校は、三重県立かがやき特別支援学校草の実分校となり、津市立高茶屋小学校あすなろ分校及び津市立南郊中学校あすなろ分校は県立学校へ移管し、三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校となる。
平成 29 年 4 月 1 日	飯田幸雄が初代校長として着任する。
平成 29 年 6 月 1 日	草の実分校、あすなろ分校が津市大里の三重県立子ども心身発達医療センター開設に合わせて、併設校舎に移転する。
平成 30 年 4 月 1 日	東直也が第2代校長として着任する。
平成 31 年 2 月 9 日	森井博之が第3代校長として着任する。
令和 3 年 4 月 1 日	本校やまばと学級が草の実分校へ移管される。
令和 4 年 4 月 1 日	赤尾時寛が第4代校長として着任する。 三重大学医学部附属病院院内教室高等部が設置される。
令和 7 年 4 月 1 日	遠藤純子が第5代校長として着任する。

参考資料

(1) 本校（緑ヶ丘校）

昭和 31 年 9 月 1 日	三重県教育委員会より国立三重療養所内に養護分教場を設置することの認可を受ける。
昭和 32 年 3 月 25 日	第1回卒業式を挙行する。
昭和 35 年 12 月 1 日	安芸郡豊里村立大里小学校緑ヶ丘分校、津市豊里村教育組合立一身田中学校緑ヶ丘分校と改称される。
昭和 48 年 2 月 1 日	豊里村の津市合併により、津市立となる。
昭和 52 年 4 月 1 日	緑ヶ丘分校を県立学校に移管し、三重県立緑ヶ丘養護学校として開校される。 林道明が初代校長として発令される。
昭和 52 年 7 月 13 日	新校舎竣工式を挙行する。
昭和 53 年 5 月 20 日	体育館完成を祝う会を実施する。
昭和 53 年 5 月 25 日	運動場、校門、外柵等完成する。
昭和 54 年 4 月 1 日	養護学校就学義務制が施行され、国立療養所静澄病院に入院中の重度重複障害児を対象に訪問教育が実施される。
昭和 55 年 4 月 1 日	福田紀夫が第2代校長として着任する。
昭和 59 年 4 月 1 日	保井久子が第3代校長として着任する。
昭和 61 年 8 月 24 日	同窓会が設立され、第1回総会が開かれる。
昭和 62 年 4 月 1 日	飯田宏が第4代校長として着任する。
昭和 62 年 12 月 10 日	校舎増築工事が完了する。
平成 2 年 4 月 1 日	中西正子が第5代校長として着任する。
平成 2 年 4 月 12 日	高等部が開設される。
平成 5 年 3 月 30 日	高等部棟が完成する。
平成 5 年 4 月 1 日	富田豊久が第6代校長として着任する。
平成 6 年 8 月 23 日	本館と高等部棟の渡り廊下の工事が完成する。
平成 8 年 4 月 1 日	三重大学医学部附属病院に院内教室が開設され、入院中の児童生徒に訪問教育が実施される。
平成 9 年 4 月 1 日	笠井雅秀が第7代校長として着任する。
平成 10 年 5 月 26 日	国立静澄病院の重度重複障害児が三重病院山鳩病棟へ移る。
平成 11 年 4 月 1 日	山中てる子が第8代校長として着任する。 山鳩学級が重複学級として認可される。
平成 12 年 6 月 1 日	市道敷設に伴う校門と遊具の移動並びにロータリーが完成する。
平成 13 年 2 月 2 日	学部園及びピオトープが完成する。
平成 14 年 4 月 1 日	平尾栄司が第9代校長として着任する。
平成 17 年 4 月 1 日	富田正宏が第10代校長として着任する。
平成 19 年 4 月 1 日	学校教育法改正に伴い校名を「三重県立緑ヶ丘特別支援学校」と変更する。
平成 20 年 4 月 1 日	飯田幸雄が第11代校長として着任する。
平成 22 年 4 月 1 日	西口辰生が第12代校長として着任する。
平成 24 年 4 月 1 日	澤井邦央が第13代校長として着任する。
平成 26 年 4 月 1 日	飯田幸雄が第14代校長として着任する。

（２）草の実分校

昭和 32 年 10 月 1 日	三重県立草の実学園内に津市立高茶屋小学校草の実分校、津市立南郊中学校草の実分校を併設する。
昭和 37 年 4 月 1 日	三重県立養護学校の設立に伴い津市立高茶屋小学校草の実分校、津市立南郊中学校草の実分校を三重県立養護学校草の実分教室と改称する。
昭和 37 年 4 月 1 日	上田真吾が初代校長として着任する。
昭和 40 年 4 月 1 日	近藤寿が第2代校長として着任する。
昭和 44 年 4 月 1 日	青木祝捷が第3代校長として着任する。
昭和 47 年 4 月 1 日	幸野鶴雄が第4代校長として着任する。
昭和 51 年 2 月 7 日	プレハブ学習棟（3 教室）を増築する。
昭和 51 年 4 月 1 日	打田伊三郎が第5代校長として着任する。
昭和 52 年 4 月 1 日	三重県立養護学校を三重県立城山養護学校に校名を変更する。
昭和 53 年 4 月 1 日	中島武造が第6代校長として着任する。
昭和 54 年 3 月 31 日	草の実分校校舎（2 階建）が完成する。
昭和 54 年 4 月 1 日	三重県立城山養護学校草の実分教室が三重県立城山養護学校草の実分校として発足する。
昭和 54 年 8 月 4 日	三重県立城山養護学校草の実分校竣工式を挙げる。
昭和 56 年 4 月 1 日	稲葉慶一が第7代校長として着任する。
昭和 58 年 4 月 1 日	辻一郎が第8代校長として着任する。
昭和 60 年 4 月 1 日	坪井隆が第9代校長として着任する。
昭和 63 年 4 月 1 日	山田福茂が第10代校長として着任する。
平成 元年 4 月 1 日	前田雄也が第11代校長として着任する。
平成 3 年 2 月 28 日	草の実分校高等部棟（2 階建）が完成する。
平成 3 年 4 月 1 日	高等部を開設する。
	西井明が第12代校長として着任する。
平成 3 年 6 月 3 日	三重県立城山養護学校草の実分校高等部開設式を挙げる。
平成 5 年 4 月 1 日	三重県立草の実養護学校として独立する。
	佐々木玄雄が初代校長として着任する。
平成 5 年 11 月 29 日	三重県立草の実養護学校開校式を挙げる。
平成 7 年 3 月 3 日	運動場改修工事が完了する。
平成 8 年 4 月 1 日	渥美正義が第2代校長として着任する。
平成 10 年 4 月 1 日	中川靖治が第3代校長として着任する。
平成 13 年 4 月 1 日	瀬尾浩二が第4代校長として着任する。
平成 17 年 4 月 1 日	堀出洋子が第5代校長として着任する。
平成 19 年 4 月 1 日	学校教育法の一部改正に伴い校名を「三重県立草の実特別支援学校」と変更する。
平成 20 年 4 月 1 日	白井一昭が第6代校長として着任する。
平成 21 年 4 月 1 日	三重県立特別支援学校条例の一部を改正する条例の施行に伴い、三重県立城山特別支援学校草の実分校と改称する。
	白井一昭が第17代校長として三重県立城山特別支援学校に着任する。
平成 25 年 4 月 1 日	井坂誠一が第18代校長として着任する。
平成 28 年 4 月 1 日	西谷嘉修が第19代校長として着任する。

（３）あすなろ分校

昭和 39 年 11 月 19 日	三重県立高茶屋病院内に児童病棟「あすなろ学園」が設立される。
昭和 39 年 4 月 1 日	入院児童生徒が地元の高茶屋小学校と南郊中学校に通学を開始する。
昭和 42 年 4 月 1 日	あすなろ分校分教室として津市教育委員会より認可（小中各 1 教室）される。
	文部省障がい児教育研究指定校となる。
昭和 43 年 4 月 1 日	あすなろ分教室がわが国初の情緒障がい児学級として発足する。
昭和 46 年 4 月 1 日	あすなろ分教室があすなろ分校に昇格する。
昭和 60 年 4 月 1 日	三重県立小児診療センターあすなろ学園として県立高茶屋病院より分離して開園するに伴い、津市立高茶屋小学校あすなろ分校、津市立南郊中学校あすなろ分校として設置される。